

健友俳壇 第二十二回

(令和七年一月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、会報第72号（平成26年7月号）から掲載が始まり22回目となりました。今回は、秋の「健友旅行」が実施されました。

「一般の句」39句、「旅の句」16句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田 桜（うえだ さくら）氏に選句と講評をいただきました。

一般の句

●特選（二句）

秋まつり 終えて静かに 神輿倉

みこしごら

菊川 雄二

秋まつり

終えて静かに

神輿倉

菊川 雄二

秋祭り後の静寂こと厳しさが、神輿倉に集約されている。

初雪が降るか降らぬか 本屋まで

武居 正次

初雪が降りそうな気配の中、本屋まで出掛けている。

このような気配を雪催という。

●入選（四句）

石蕗の花 母の入院 長くなり

高橋 洋子

母親の入院が長引いている。

石蕗の花を見ながらふと胸をよぎるのはやはり母親の病氣のことである。

散歩道 ねころ草取り 遊ぶ子ら

松本 加代美

猫じやらし、狗尾草のことをねころ草といふ。地方の呼び方。散歩しつねころ草を取り遊ぶ子ら。添削 ねころ草取りつつ遊ぶ 散歩道

化粧品 買つて笑顔に 秋の部屋

日野原 志津江

添削 化粧品 買うて笑顔の 秋の部屋

吉田 誠

秋の道 平和を祈る 地蔵尊

吉田 誠

秋らしくなってきた道すがら、お地蔵さまを見た、地蔵尊の両手がまるで平和を祈っているかのように思えた。

秋の道 平和を祈る 地蔵尊

吉田 誠

健友旅の句

●特選（二句）

紅葉にはえる富弘 美術館

良くできています。

石蕗（つわ）咲いて 臨江閣を 仰ぎ見る

宮川 修一

季語と臨江閣の取り合せが良い。

●入選（三句）

臨江閣のかつての人々と秋を感じとつていてる。

薄紅葉 上州道の夕日かな

田村 弘治 細井 榮一

下五を変えると更によくなります。添削 入日かな

陽光に映える紅葉のグラデーション

瀬川 恵美

添削 陽光にゆれて紅葉のグラデーション

投稿の句

●一般（三十三句）

納税のすべて終へて秋日和
内科すみひと安心や秋日和
公園に犬の連れ人秋晴る
数字遊びに挑戦するや夜長かな

日野原 志津江

秋晴や娘入籍した電話

高橋 洋子

八十神の籠れる森に龍田姫

武居 正次

神輿庫や公孫樹高き村社
平和の像抱かれた幼子の目すき通り

山田 常雄

平和の灯消えずに銀杏舞う
平和の灯忘れ時どゆらぐ火に幼子の顔

古賀 のり子

金もくせまち歩きハロウイン目にしワクワクと
花みずき色づく葉っぱここちよし

久田 恵津子

枯れ草にせみの抜け殻秋深し
七色に心うきうき秋の花

松本 加代美

金木犀香り楽しむ神社猫
秋吟行さがすはネタより飲屋なり

菊川 雄二

みこし庫で一年眠り秋祭り
平和の灯そっと見守る池もみじ

吉田 誠

●健友旅（十一句）

バスの旅窓にうつろう紅葉画
美術館外部展示は紅葉画

榎本 一郎

小春日に詩と花の絵と草木湖と
さわやかや心添い立つ絵手紙に

田村 弘治

秋旅行人柄やさし詩人去り
温かく心に染み入る秋のこし

古賀 のり子

にじみ出る人柄やさし天にめされ
バスハイク友とゆられし秋の顔

古賀 のり子

留守番の友におみやげ拾う秋
車中あたたか草木湖に落葉飛び

久田 恵津子

旅樂し赤城の山は空高く

田中範行

従来は、各回の俳壇での発表は一般・旅行それぞれ点の投稿として参りましたが、複数の作品の発表が可能となりました。まだ投稿されたことのない皆様、半年に一点、できましたら、毎月一点の投稿をしてみませんか。会報部では多数の投稿をお待ちしております。

健友俳壇は常時受け付けをしています。一般の句、5月31日までの提出分を会報1月号に掲載予定です。

11月30日までの提出分を会報1月号に掲載予定です。